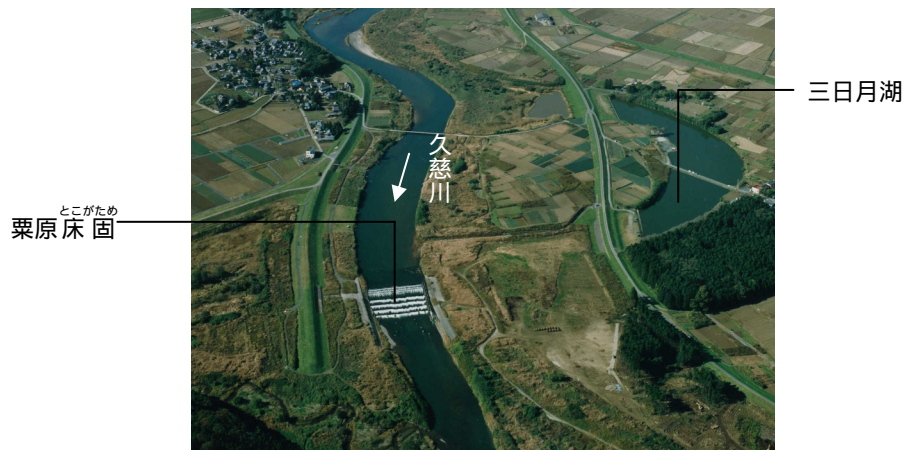


b. 粟原・門部 捷水路工事

かつての当地区の久慈川は、那珂市門部地先より北流し、常陸太田市粟原地先に至り南に流れを変え、那珂市額田北郷地先の断崖にさえぎられ、再び北流し粟原地先に至る延長6.1kmの大湾曲部を形成していた。湾曲部上流地区では、洪水の疎通が阻害され洪水のたびに沿川地区に甚大な被害を及ぼし、湾曲部は治水上の難所であった。工事は、この逆S字型の大湾曲部を1.3km短縮し、新水路延長4.8kmに矯正するもので、昭和28年度から施工が開始された。門部地先の工事は、昭和31年（1956）8月末には終了し、また、粟原地区の捷水路の掘削工事^{しょうすいり}は、昭和31年度から施工が行われ、昭和32年（1957）1月初旬には、本川河道の締切を終了し、久慈川の本川の流れは新河道を流下した。

その後粟原床固工事を昭和31年度に着手し、昭和32年3月に完成させ、一連の工事が完了した。

図 3-6に捷水路工事前後の地形図を示す。河川が直線化され湾曲部は三日月湖として分離されている。



粟原・門部地区付近(常陸太田市・那珂市) (平成15年11月撮影)

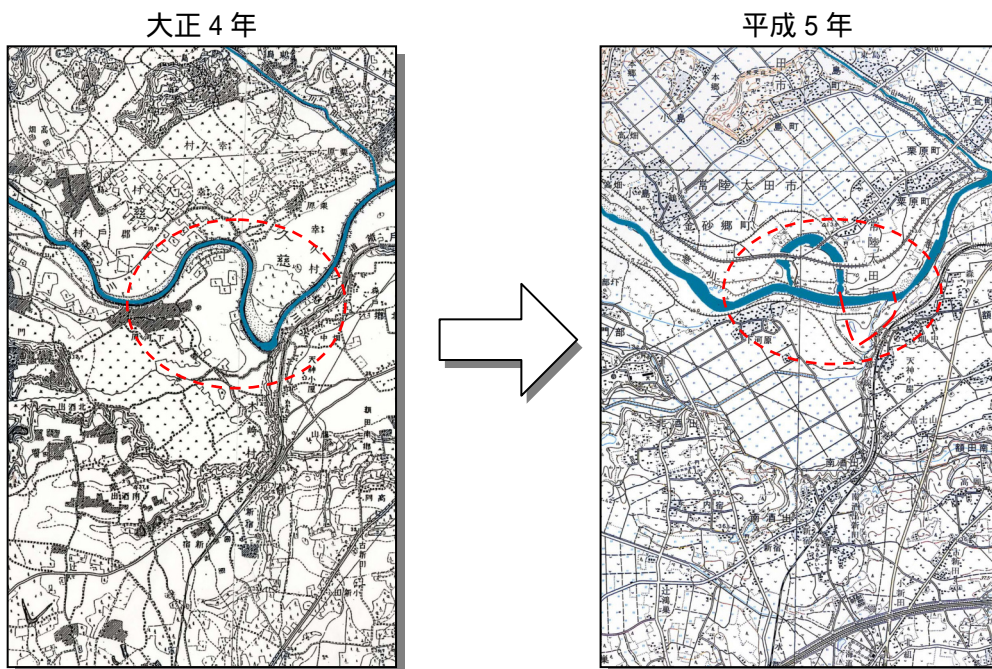


図 3-6 粟原・門部地区付近の河道の変遷